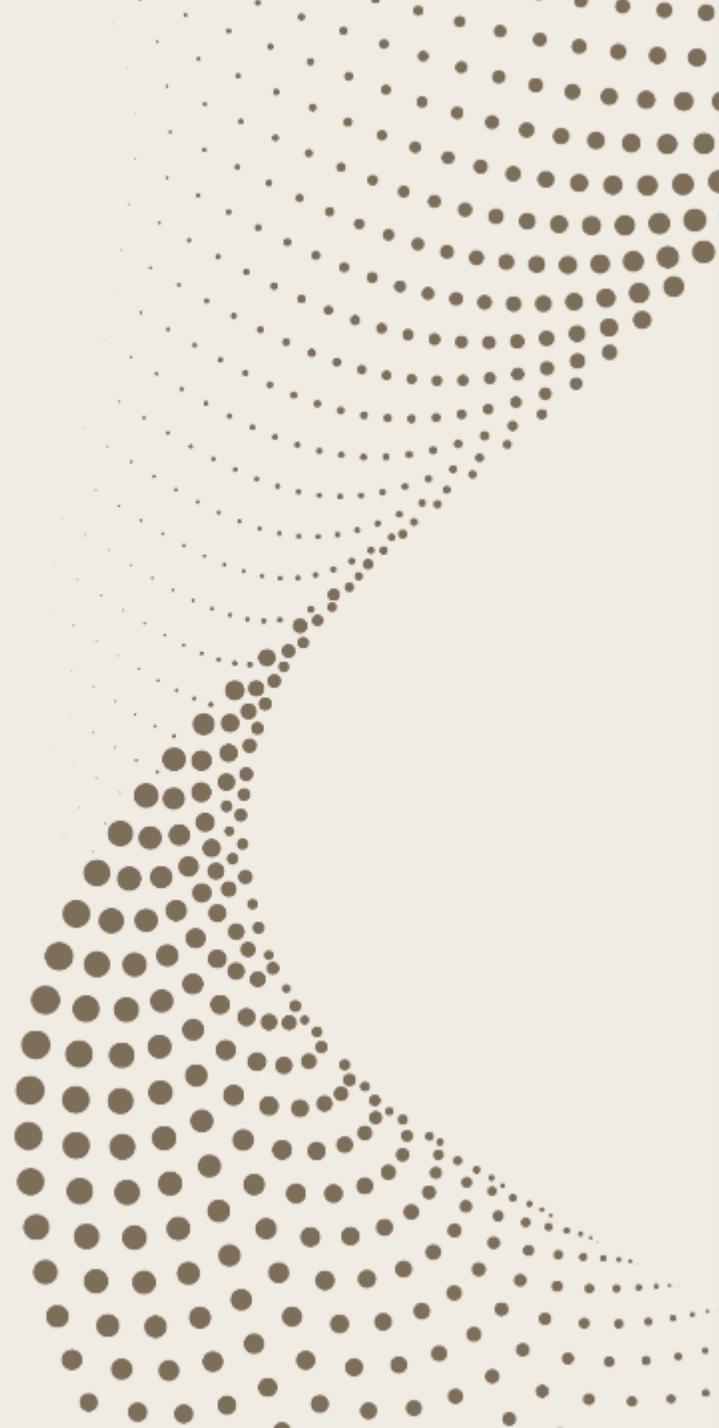


こども・子育て分野における生成AI 利用等に係る調査研究
第5回検討委員会
本事業全体の結果報告

令和7年3月4日

アビームコンサルティング株式会社

1. 本事業の振り返り



1. 本事業の振り返り

1.1. 本事業の全体概要

- 本事業では、**こども・子育て分野を中心に生成AIを利活用した事例の調査**や、**地方公共団体や保育施設担当者等の生成AIへのニーズを調査**するとともに、**生成AIを利用した取組を実証的に行う**ことで、各ステークホルダーを巻き込み、**次年度以降の社会実装に向けた土台作りを行う**ことを目的に実施しました。
- そして、実証等を通じて、**こども・子育て分野において公共団体等が生成AI等を利用する際に留意すべき論点やその効果等を整理し、ガイドラインや標準仕様として取りまとめ**を行いました。

	(1) 本事業の 運営管理	(2) 生成AIの 事例調査	(3) 生成AI を利用した 取組の実証	(4) 検討委員会の 設置・運営	(5) 成果報告書の 作成
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・業務実施計画書を作成 ・業務実施計画書に基づき、業務を推進し、進捗管理・課題管理・リスク管理、ステークホルダー管理等の各種プロジェクトマネジメントを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・生成AI の動向調査 こども・子育て分野を中心に生成AIを利活用した事例を調査し、考えられるユースケース及び論点を整理する。 ・生成AI に関するニーズ調査 こども・子育て分野に関連する地方公共団体の業務及び保育施設等の業務において生成AI の利用に向けた課題・ニーズを調査しとりまとめ、考察・論点を整理する 	<ul style="list-style-type: none"> ・実証の推進 地方公共団体や保育施設等において、生成AI を利用した取組を実証的に行い、論点、課題、効果等を整理する ① 実証事業参画団体の公募と決定 ② 実証事業に必要な環境の整備 ③ 生成AI 利用のユースケースの検討 ④ 実証実施 ⑤ 実証結果の取りまとめ ⑥ 報告会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・生成AI利用ガイドラインの作成 事例調査・実証の結果を踏まえ、こども・子育て分野における生成AIの適切な利用に向けたガイドラインを弊社にて作成（※概要版も含め作成） ・標準調達仕様書作成 地方公共団体が生成AIを構築する際の調達仕様書サンプルを作成 ・検討委員会の設置・運営 委員7名の検討委員会を立ち上げ、委員会運営等の各種ロジを実施。検討委員会での議論を踏まえて実証事業の実施及びガイドラインの作成を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書作成 (2)～(4)の内容の取組や成果等をまとめた「成果報告書」を作成
成果 (アウトプット)	<ul style="list-style-type: none"> ・業務実施計画書 ・各種プロジェクト管理資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例調査結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・公募要領、公募審査結果 ・実証環境（プログラム、設計書等） ・生成AI利活用ユースケース ・実証計画書 ・実証結果 ・報告会向け資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・生成AI利活用ガイドライン（本編、概要版） ・地方公共団体が生成AIを構築する際の調達仕様書サンプル ・検討委員会向け資料 ・検討委員会議事録 ・委員からの助言・提言一覧 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書（本編、概要版）

1. 本事業の振り返り

1.2. 本事業の成果物（1/3）

- 「生成AIの事例調査」における成果物は以下のとおりです。

生成AIの事例調査

3.2. 生成AIの概観

3.2.1. 生成AIとは

- 生成AIとは既存モデルを大規模化することによって飛躍的な精度向上が図られたAIであり、言語や画像、音声、その他データを学習した基礎モデルによって構成されます。
- これまで専用機能特化型のAIが主流でしたが、知的生産性が求められる汎用的なタスクが比較的容易に実施できるようになってきたことで注目されています。

4.2. こども・子育て分野における生成AI等の活用事例

4.2.3. 個別事例①

【山形県山形市】AIを活用した保育園の入所調整業務の効率化(2/3)

- 保育園の選考をAI技術である数理最適化技術によって代替することで、工数の削減を図りました。
- 人手での確認・承認機能を削り、手作業による選考と同等の精度が得られるよう配慮しています。

AI技術による業務改革

As-Is業務

To-Be業務

保育前からの要項・申し込み受領

各職員が個別に判断

全担当職員が介して結果のすり合わせ

保育前からの要項・申し込み受領

AIを利用したマッチング

一部職員による結果チェック

数理最適化技術を用いたAIマッチングシステムを採用

- ・ 数式的な手法やアルゴリズムを用いて、与えられた制約条件の下で特定の目的関数を最大化または最小化する問題を解決に導く計算技術
- ・ 配送業界の配送ルート最適化やダイレクトマーケティングのターゲット選定等にも用いられる
- ・ 住所や兄弟の通園状況、勤務先の住所等を制約条件として、保護者の保育園の志望度を最大化することが可能

confidential ©2024 ABeam Consulting Ltd.

4. アンケート調査の分析結果（地方公共団体）

4.1. 活用実態とニーズ

4.1.3. 活用実態の分析詳細

A. 現在の生成AIの活用実態

「0.1.5. 所属団体」×「1.1. 活用実態」

市区町村に比

都道府県庁 [n=27]

地方公共団体

4. アンケート調査の分析結果（地方公共団体）

4.1. 活用実態とニーズ

4.1.4. ニーズの分析詳細

I. 団体の種別と今後生成AI等の活用が見込める業務内容の関連

「2.1.1. 活用意向」×「2.1.4. 生成AI活用の効果が見込める業務」

情報収集や文章要約におけるニーズが高いため、情報収集や文章要約におけるコツや注意点を知りたい団体も多いと推察される。

地方公共団体 [n=555*] (複数回答可)

都道府県庁 [n=24*] (複数回答可)

市役所等 [n=531*] (複数回答可)

情報収集作業

文章の要約作業

アイデア出し

コンテンツ作成

画像作成

規定フォーマットの作成

その他

※ 図表2.1.1. 活用意向にて、「生成AI活用で特に導入したい団体の種別」

◆ 集計割合10%以上の標準数であるため、集計に留意が必要

※ 都道府県庁・市役所等では団体数に限りなく、回答数が多い

※ 「文章の要約作業」は「情報収集作業」への関連性が高い

※ 「画像作成」は「コンテンツ作成」よりも関連性が高いと考えられている

confidential ©2024 ABeam Consulting Ltd.

生成AIの事例調査結果

目的

次年度以降の本格展開を見据え、生成AIの利用者になりえる地方公共団体や保育施設担当者が生成AIの活用イメージや効果・意義が理解できるようにする

成果物のポイント

- ✓ 生成AIを中心にAIの技術的情報を整理
- ✓ こども・子育て分野の業務を中心に、生成AIを活用している事例を幅広く収集

生成AIに関するこども子育て現場のニーズ調査結果

目的

地方公共団体、保育施設担当者の現場の困りごとや生成AI等の技術への期待値を把握

成果物のポイント

- ✓ 全国の地方公共団体（都道府県：47団体、市町村：1718団体）および保育施設に対してアンケート調査を行い、幅広く・漏れなくニーズ・課題感を抽出し取りまとめ
- ✓ アンケート調査の回答データを分析した単純集計、クロス集計結果をグラフ等で可視化

1. 本事業の振り返り

1.2. 本事業の成果物（2/3）

- 「生成AIを利用した取組の実証」における成果物は以下のとおりです。

生成AIを利用した取組の実証

1. 実証事業の概要

1.3. 公募概要 採択団体一覧 (1/2)

■ 採択された実証団体は全14であり、合計46のユースケースを実施しました。
■ ユースケースの種類は34であり、木更津市・白浜市と沼江市・北上市・横浜瀬市でそれぞれ複数回ユースケースを実施しました。

採択団体及びユースケース一覧

No.	採択団体	ユースケース	採択事業中の 取組内容	採択事業中の 取組成果物
1	森田製菓*	・ 社内業務効率化のAI活用 ・ 顧客対応のAI活用 ・ 社内業務効率化のAI活用	・ 社内業務効率化のAI活用 ・ 顧客対応のAI活用	・ 社内業務効率化のAI活用 ・ 顧客対応のAI活用
2	新井製菓 山田社	・ 顧客対応のAI活用 ・ 社内業務効率化のAI活用 ・ 社内業務効率化のAI活用	・ 顧客対応のAI活用 ・ 社内業務効率化のAI活用	・ 顧客対応のAI活用 ・ 社内業務効率化のAI活用
3	千葉県 水産庁	・ 漁業関係者へのAI活用 ・ 漁業関係者へのAI活用 ・ 漁業関係者へのAI活用	・ 漁業関係者へのAI活用 ・ 漁業関係者へのAI活用	・ 漁業関係者へのAI活用 ・ 漁業関係者へのAI活用
4	千葉県 伊勢丹	・ AI活用による業務効率化 ・ AI活用による業務効率化 ・ AI活用による業務効率化	・ AI活用による業務効率化 ・ AI活用による業務効率化	・ AI活用による業務効率化 ・ AI活用による業務効率化
5	石川県 海産物*	・ AI活用による業務効率化 ・ AI活用による業務効率化 ・ AI活用による業務効率化	・ AI活用による業務効率化 ・ AI活用による業務効率化	・ AI活用による業務効率化 ・ AI活用による業務効率化
6	大田区 産物科*	・ AI活用による業務効率化 ・ AI活用による業務効率化 ・ AI活用による業務効率化	・ AI活用による業務効率化 ・ AI活用による業務効率化	・ AI活用による業務効率化 ・ AI活用による業務効率化
7	長野県 中野市*	・ AI活用による業務効率化 ・ AI活用による業務効率化 ・ AI活用による業務効率化	・ AI活用による業務効率化 ・ AI活用による業務効率化	・ AI活用による業務効率化 ・ AI活用による業務効率化

実証結果

目的

実証成果を関係者間で共有するとともに、次年度以降の本格展開に向けての論点や課題に対する対応策の指針となるように取りまとめる

成果物のポイント

- ✓ 実証団体の利用者からの声を掲載
- ✓ 各実証団体で上手くいった点・上手くいかなかった点のどちらも記載
- ✓ 実証期間内で各団体と調整したセキュリティ面の対策を整理

1. 本事業の振り返り

1.2. 本事業の成果物（3/3）

- 「検討委員会の運営・設置（生成AI利活用ガイドライン等の作成）」における成果物は以下のとおりです。

検討委員会の運営・設置（生成AI利活用ガイドライン等の作成）



2. 調達案件の概要

2.1. 調達の背景

- <本市>では、子ども子育て家庭等が必要な情報に集約し、簡単にアクセスでき、様々な行政手続きをストレスなく行うことができる環境を整備するために、子ども子育て業務のDXを推進している。特に子育て関連事業に携わる職員の業務負担を軽減し、子ども子育て支援事業の質の向上や、よりきめ細やかな対応を目指していることが重要である。
- 近年のDXの動向として、生成AIの社会実装が進んでいる背景から、生成AIを活用した子ども子育て業務のDXが検討されている。行政で生成AI活用を進めるに当たり、情報セキュリティの観点等の課題が存在するものの、生成AIを柔軟かつ有効に使用することで<本市>においても子ども子育て分野の業務において様々なユースケースで抜本的な業務効率化・高度化を実現できる可能性は十分にある。
- このことから、<本市>においては子ども子育て分野の業務において生成AIの活用を適切に進め、業務効率化・高度化を目指すため生成AIを活用したシステムの導入を行う。

2.2. 調達の目的及び期待する効果

- 安全な基盤上で生成AIを活用することができるシステムを調達し、子ども子育て分野の業務において生成AIを適切に活用することにより、子ども子育て中の市民の利便性向上と職員の業務負担軽減につなげることを目的とする。生成AIを活用することで、個人の知識・経験に依存しない業務品質の標準化及び業務負担の軽減等による効率化・高度化を期待する。

2.3. 本業務の用語一覧

本調達仕様書で使用する用語の定義を以下に示す。

用語	定義
生成AIモデル	大量のデータを学習し、新たなデータを生成するAIの一種。自然言語処理や画像生成など、様々な分野で活用されており、ユーザーからの指示（プロンプト）に応じて応答やコンテンツを自動生成する。
委託者	本調達を実施する発注担当課
利用者	生成AIシステムを利用する職員

生成AI利活用ガイドライン

目的

次年度以降に地方公共団体等の利用者が安心して生成AIを利用できるようにするための指針となるよう作成を進める

成果物のポイント

- ✓ 様々な知識レベルの方が参照することを想定し、基礎編、実践編といったように、目的別にガイドラインを分けて作成
- ✓ 経済産業省、文部科学省、東京都など、既に生成AI利活用ガイドラインを作成している好事例を参考にガイドラインを作成することで、既存の調査結果を含めた知恵の結集

調達仕様書サンプル

目的

全国の地方公共団体等において、生成AI導入時の仕様書作成等の負担を軽減できるよう、調達仕様書サンプルを取りまとめる

成果物のポイント

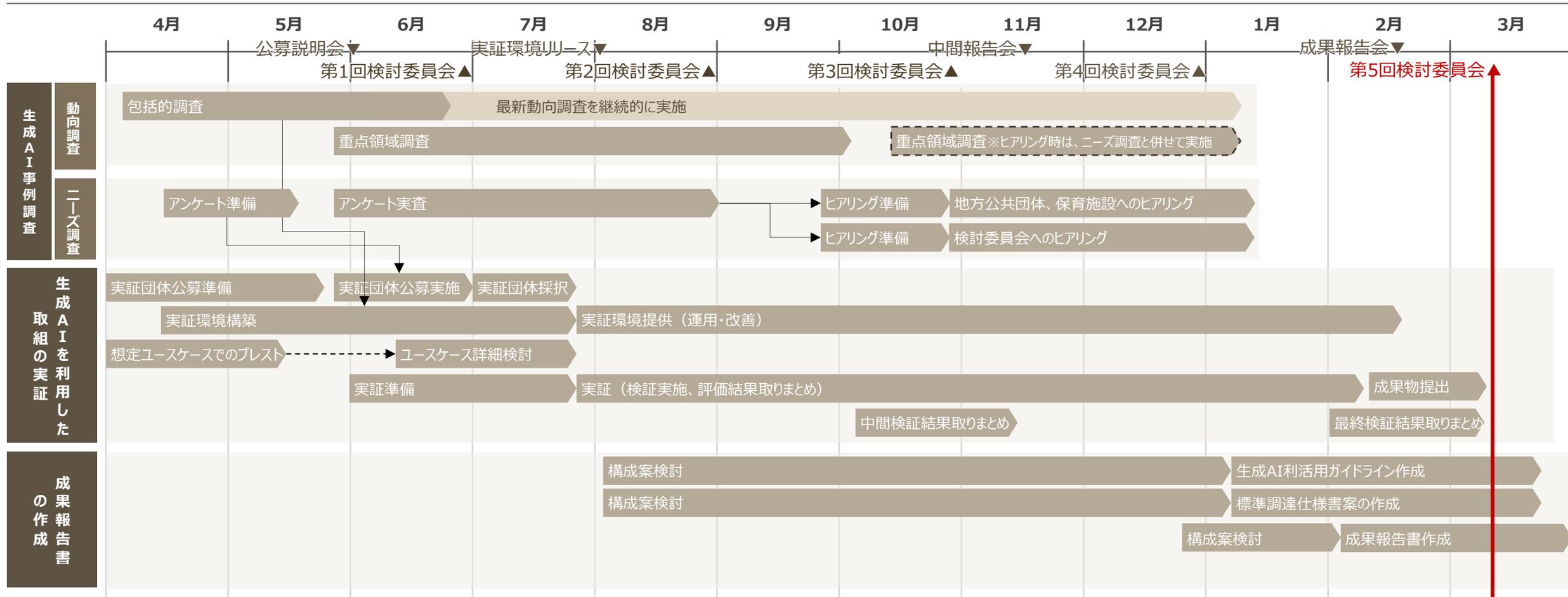
- ✓ 実証参加団体の自治体の意見を確認し、自治体目線で利活用しやすい記載ぶりに
- ✓ 共通的に利用出来て陳腐化しにくいユースケースを前提に記載

1. 本事業の振り返り

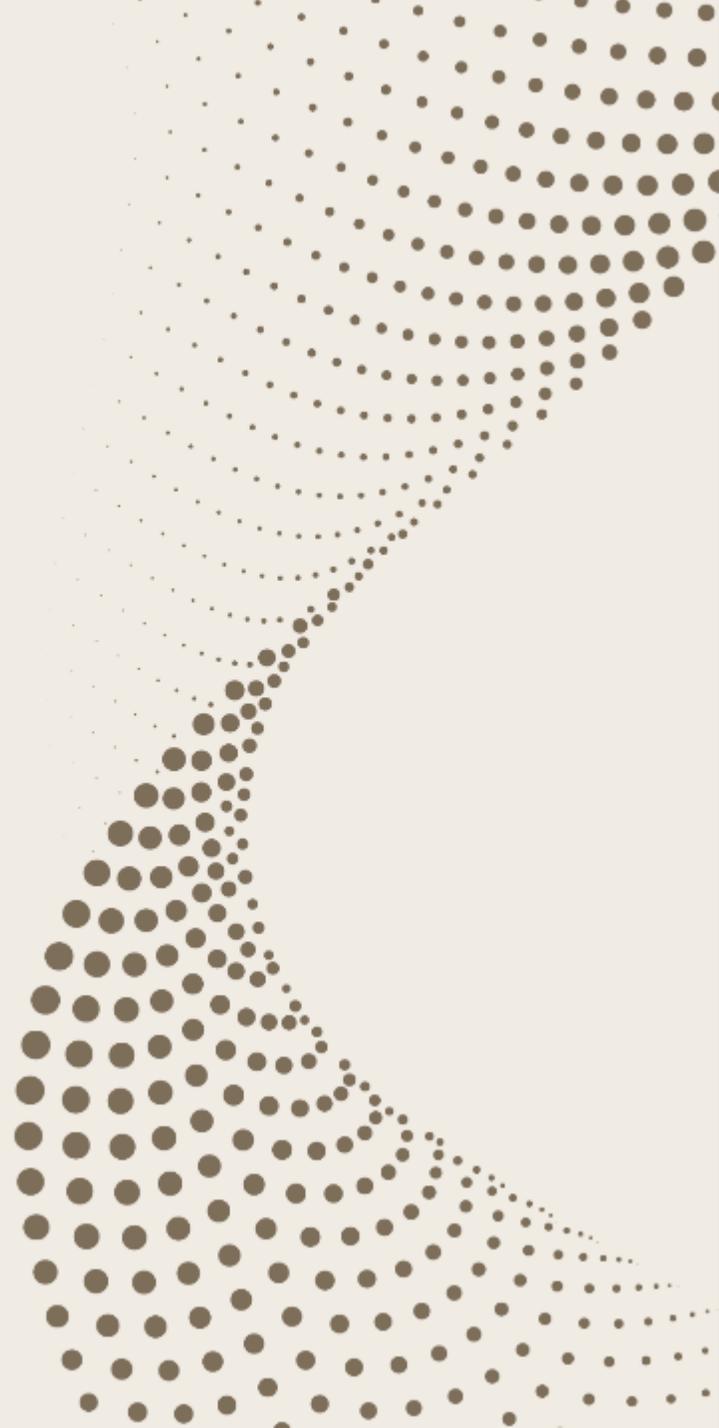
1.3. 全体スケジュール概観

- 事例調査（動向調査、ニーズ調査）は実施が完了し、調査結果の取りまとめとガイドラインへの反映作業を実施しております。
- 実証については、実証団体（全14団体）による最終報告会を開催し、各実施報告書をもとに最終成果の取りまとめを実施しております。
- 成果報告書としては、生成AI利活用ガイドライン及び調達仕様書サンプルの素案の作成が完了し、関係各所にてレビューを実施中です。今後は、レビュー結果の取り込み作業を行い、各成果物の最終化を行います。

本事業の全体スケジュール



2. 実証事業のご報告

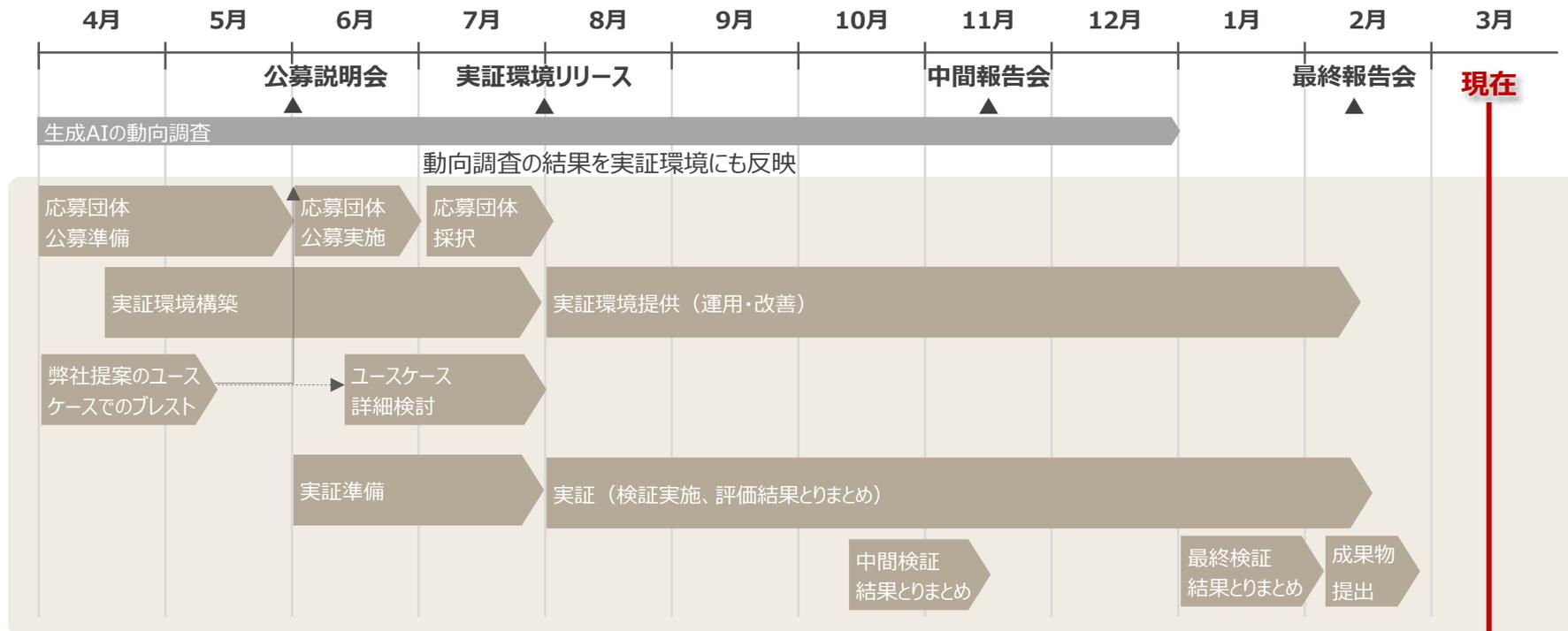


2. 実証事業のご報告

2.1. スケジュール

- 第4回検討委員会（令和6年12月25日開催）以降、本実証事業に協力いただく団体（以降、「実証団体」とする）に対する実証環境の提供や実証を進め、全団体の実証が完了しました。
- 2月には最終報告会を実施し、各実証団体において検証結果の報告・実証団体間での今後の生成AI活用に向けた意見交換を実施しました。

「生成AIを利用した取組の実証」の全体スケジュール



2. 実証事業のご報告

2.2. ユースケース一覧 (1/2)

- 本実証事業では、以下のユースケースを実施しました。

実証団体及びユースケース一覧

※生成AIの実証環境はABeam提供

No.	団体名	ユースケース	保育施設等の関係機関	協力事業者名
1	奈良県※	<ul style="list-style-type: none">住民と支援制度の適切なマッチング支援自治体職員の庁内子育て関連情報の収集支援支援制度データの整形業務支援	—	<ul style="list-style-type: none">デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
2	栃木県 小山市	<ul style="list-style-type: none">5歳児（年中児）健康相談の記録等作成業務支援支援方針会議の会議記録作成業務支援健診結果・アンケート等の傾向分析業務支援	—	<ul style="list-style-type: none">富士通 J a p a n 株式会社
3	千葉県 木更津市	<ul style="list-style-type: none">対応支援チャットボットによる自治体職員の庁内子育て関連情報の収集支援	—	<ul style="list-style-type: none">EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社
4	千葉県 印西市	<ul style="list-style-type: none">チャットボットを用いた住民の子育て関連情報の収集支援	—	—
5	石川県 加賀市	<ul style="list-style-type: none">こども一人ひとりの姿を起点とした連絡帳文面の作成業務支援こども一人ひとりの姿を起点としたクラス日誌の作成業務支援こども一人ひとりの姿を起点とした探究的な学びを促す明日の活動のデザイン業務支援こども一人ひとりの姿を起点とした教育的ドキュメンテーションの作成業務支援	保育園	<ul style="list-style-type: none">株式会社エクサウィザーズ株式会社VisionWizまちの研究所株式会社
6	大阪府 富田林市※	<ul style="list-style-type: none">各種文書の多言語版の作成業務支援こどもの権利条例の周知に向けた広報物のイラストの作成業務支援こどもの権利条例の周知に向けた広報物の文章案の作成業務支援条例検討委員会でのシナリオ案作成業務支援条例検討委員会での議事録要約案の作成業務支援各種イベント内容や出前講座等の企画と資料作成業務支援各種調査結果（アンケート・関係機関ヒアリング・ワークショップなど）の整理と分析及び報告書作成業務支援	—	なし
7	長野県 中野市※	<ul style="list-style-type: none">保護者説明資料や保育課報告資料の作成支援事故発生時のアラート通知及び映像分析支援	保育園	<ul style="list-style-type: none">NTTコミュニケーションズ株式会社

2. 実証事業のご報告

2.2. ユースケース一覧 (2/2)

■ 前頁の続き。

実証団体及びユースケース一覧

No.	団体名	ユースケース	保育施設等の関係機関	協力事業者名
8	宮城県 仙台市	<ul style="list-style-type: none">児童館職員の内部資料作成業務支援職員間・施設間での庁内情報収集支援児童館職員のエンターテインメントコンテンツ企画・創出業務支援児童館職員の心理状態評価及びカウンセリング支援	児童館、児童クラブ	<ul style="list-style-type: none">株式会社セレンディカ
9	奈良県 奈良市	<ul style="list-style-type: none">専門的な相談内容に対するデータ加工・分析業務支援	—	<ul style="list-style-type: none">富士通Japan株式会社株式会社オブページ
10	大阪府 豊中市	<ul style="list-style-type: none">チャットボットを用いた住民の子育て関連情報の収集支援	—	<ul style="list-style-type: none">株式会社サイバーエージェント株式会社AI Shift株式会社メルル
11	愛知県 名古屋市	<ul style="list-style-type: none">当事者からの相談対応記録の作成支援関係機関との連絡対応記録の作成支援	児童相談所	<ul style="list-style-type: none">株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所西日本電信電話株式会社エヌ・ティ・ティ・スマートコネクト株式会社
12	東京都 狛江市	<ul style="list-style-type: none">保育ICTシステムにおける「おたより」の文章作成業務支援保育ICTシステムにおける「連絡帳」の文章作成業務支援		
13	岩手県 北上市	<ul style="list-style-type: none">保育ICTシステムにおける「おたより、連絡帳、帳票」の外国語翻訳業務支援園児毎の写真枚数バラつきチェックによる園児個別写真整理業務支援	保育園	ユニファ株式会社
14	神奈川県 横須賀市	<ul style="list-style-type: none">不適切写真チェックによる園児個別写真整理業務支援		

2. 実証事業のご報告

2.3. ユースケースの全体像

- 本事業では自治体職員及び保育施設職員、住民をユーザと想定し、4つの生成AIカテゴリ※に関するユースケースを実証しました。
- 次頁以降では、実証成果の分析結果を整理しております。

ユースケースの全体像

ユーザ	生成AI カテゴリ※ ¹		ユースケースの全体像	
	文章	画像	画像→文章	音声→文章
自治体	コンテンツ作成 データ加工・分析 アイデア出し	翻訳 情報収集	コンテンツ作成 画像認識	コンテンツ作成 アイデア出し
保育施設	コンテンツ作成 データ加工・分析 アイデア出し	翻訳 情報収集	コンテンツ作成 画像認識※ ²	コンテンツ作成 アイデア出し
住民	コンテンツ作成 データ加工・分析 アイデア出し	翻訳 情報収集	コンテンツ作成 画像認識	コンテンツ作成 アイデア出し

※1 生成AIが生成するコンテンツの種類ごとに分類。なお、本資料では画像または音声データを基に文章コンテンツを生成するものをそれぞれ「画像→文章」「音声→文章」と整理する。

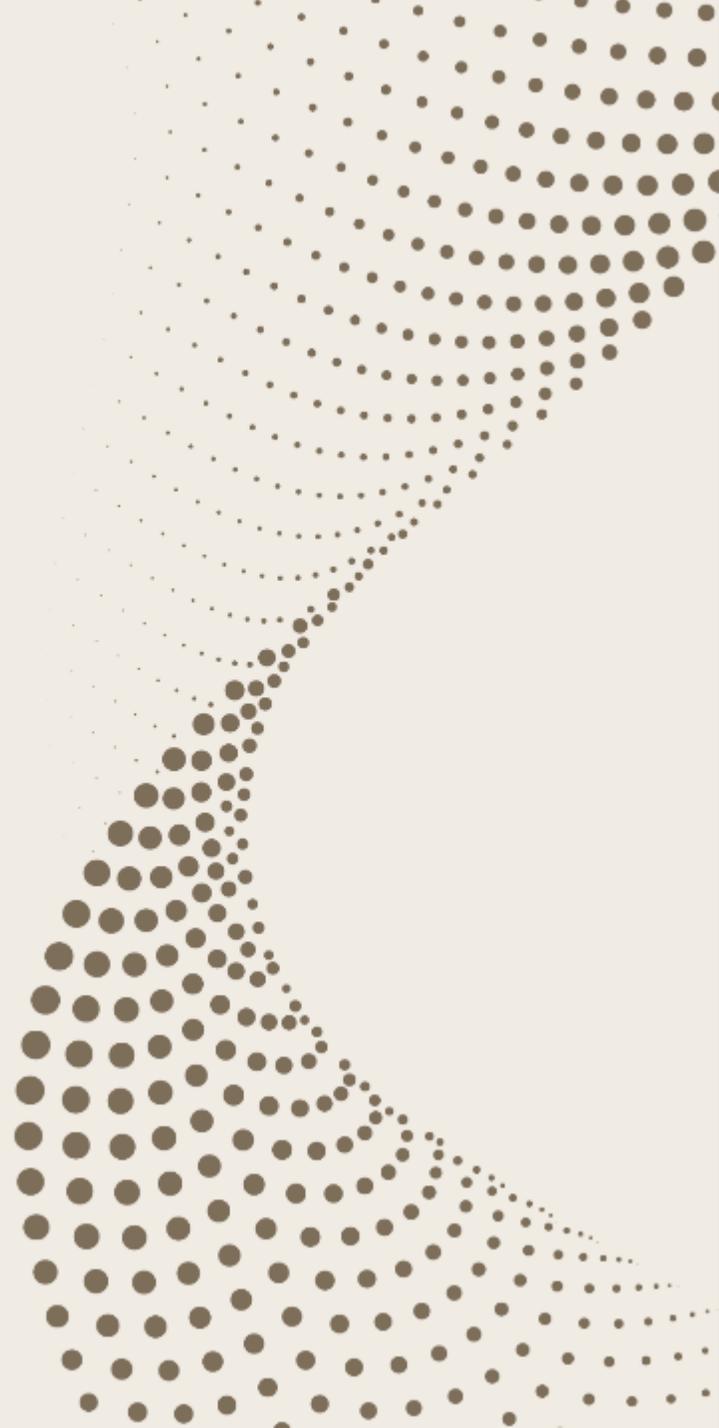
※2 保育施設における画像認識ユースケースでは、生成AIは使用しておらず画像の判別AIを用いている。

2. 実証事業のご報告

2.4. ユースケースの実証報告

※資料非公開

3. 調査事業のご報告



3. 調査事業のご報告

3.1. 動向調査の実施概要

- 動向調査では、地方公共団体やこども子育て関連施設が生成AIの導入や運用にあたって把握しておくことが望ましい情報を調査対象としました。
- 包括的調査にて前広に取りまとめた情報を踏まえて、重点領域調査にてさらに詳細な情報の調査や国際的な情報等を含めて調査しました。

調査目的

地方公共団体やこども子育て関連施設が生成AIを導入・運用するにあたって、把握しておくことが望ましい技術情報や活用事例、課題や指針等の整理

包括的調査

生成AI等技術動向に関する基礎知識の取りまとめ
行政分野やこども・子育て分野に生成AI等を導入するにあたって事前に把握いただくことが望ましい生成AI等の基本知識を取りまとめました。

行政やこども・子育て分野における生成AI活用事例の取りまとめ
こども・子育て分野を中心に生成AI等の活用事例を調査し、取組効果や取組プロセス等を取りまとめました。

生成AI利活用における課題の取りまとめ
他省庁のガイドラインや国内の研究機関の調査レポート等を基に、生成AIの利活用における社会的・倫理的課題や技術的課題等について取りまとめました。

実施内容

重点領域調査

生成AI等技術動向の詳細情報の取りまとめ
生成AIのモデル、生成AIが使用するデータ、生成AIの利用方法の観点で生成AI導入において事前に把握いただくことが望ましい技術情報など詳細な技術情報を取りまとめました。

こども・子育て分野で応用が見込める他分野の生成AI活用事例の取りまとめ
包括的調査で対象にした活用事例に加えて、こども・子育て分野において応用可能性が高い他分野における生成AIの活用事例について取りまとめました。

生成AI利活用における規制動向の取りまとめ
国際機関や他国における生成AI等のガイドラインや法律等を基に国際的な生成AIの規制動向について取りまとめました。

3. 調査事業のご報告

3.2. 動向調査の結果概要

- 調査結果は動向調査調査報告書として取りまとめた上で、一部調査内容についてはガイドライン基礎編へ反映したほか、その他の部分についてもガイドライン別添資料として提示する想定です。

調査報告書の目次

- ✓ **生成AIモデル**
生成AIの基本概念、LLMの種類と使い分け、画像生成AIモデルの種類と使い分け、国産生成AIの動向
- ✓ **生成AI等におけるデータの扱い方**
ドメイン固有のデータの活用方法、データの前処理、紙資料のデータ化
- ✓ **生成AIの利用方法**
実装方式の種類と使い分け、プロンプトエンジニアリング
- ✓ **トレンド**
動画生成AI、ドメイン特化型LLM、ローカルLLM
- ✓ **こども・子育て分野における活用事例**
こども・子育て分野における生成AI等の活用事例、こども・子育て分野に関連するシステム（アプリケーション）における国内のAI活用動向
- ✓ **類似業務を有する分野における活用事例**
教育分野、ヘルスケア分野、エンタメ分野、ソーシャルサポート分野、福祉分野
- ✓ **諸外国における事例**
諸外国のこども・子育て領域における活用事例、諸外国におけるAIインシデント事例
- ✓ **生成AI等技術の利活用に係る課題と規制動向**
社会的・倫理的課題、技術的課題、生成AI利活用時の注意事項、国際的な規制動向

調査結果の活用先

📄 ガイドライン基礎編

反映箇所（例）	反映内容（例）
3.1.(1) 生成AIとは	生成AIの基本概念の記載内容を基に作成
3.1.(4) 生成AI利活用における注意点	生成AI利活用における課題や対策を参考に作成
3.1.(5) 規制ガイドラインの動向	生成AI等技術の利活用に係る課題と規制動向にて調査した規制ガイドライン等を基に作成

etc.

📄 ガイドライン別添資料

生成AI導入にあたって有用であると想定される項目について、ガイドライン別添資料に反映

3. 調査事業のご報告

3.3. ニーズ調査の実施概要

- こども・子育て分野における生成AIに対するニーズ・課題を把握するために、全国の地方公共団体やこども子育て関連施設にアンケートを実施しました。
- アンケート項目は生成AIに対する期待値やニーズ、生成AI活用における課題感を回答する項目を中心に構成しました。

ニーズ調査概要

調査目的

- ① **こども・子育て分野における生成AI等技術に対する期待値・ニーズを漏れなく収集**
生成AIに対する期待値・ニーズを網羅的に把握するために、すべての地方公共団体・こども子育て関連施設へアンケート調査を行う
- ② **導入ニーズが高い団体・地域等を特定**
今後のアクションプランの参考にするため、導入ニーズが高い地域や団体を特定する（＝ニーズが高い団体を優先的に支援するため）
- ③ **導入時における現場の課題抽出**
地方公共団体やこども子育て関連施設に生成AIを導入する上での業務・システム環境上の課題や制約事項を把握する

調査のポイント

全国すべての地方公共団体・こども子育て関連施設を調査対象とする

全国すべての地方公共団体やこども子育て関連施設を調査対象とし、生成AI等への期待値・ニーズを漏れなく調査できるようにする
アンケート調査の結果を踏まえ、特に深掘り調査をすべき対象者を選定した上で、ヒアリング等の調査を実施する
※現場の職員様の生成AIへの理解度を考慮し、生成AIについての説明資料を別添資料にて送付しました

調査対象

- 全国すべての地方公共団体
（都道府県、市区町村）
- こども子育て関連施設
（認可保育園、幼稚園、幼保連携型認定こども園 等）

3. 調査事業のご報告

3.4. ニーズ調査の結果概要

- ニーズ調査結果については、地方公共団体や子ども子育て関連施設それぞれの期待値・ニーズや団体特性、導入課題の傾向を整理する形で取りまとめました。
- 調査結果についてはヒアリング対象者の選定やヒアリング項目作成の参考にしました。

地方公共団体のアンケート回答傾向

子ども子育て関連施設のアンケート回答傾向

調査結果の活用先

期待値・ニーズ

- 生成AIを日常的に活用している団体は限定的ではあるが、**全団体の活用への期待値は高い**傾向。
- 特に**情報収集や文章要約におけるニーズが高い**。

- **生成AIを日常的に活用している団体は限定的**であり、**全団体の活用への期待値も高いとは言えない**。
- ニーズのある団体においては**情報収集や文章要約におけるニーズが目立った**。

ヒアリング

- **調査対象：**
今後活用できる見込みがあるが活用できていない団体、導入後の定量評価を行っているなど特筆すべき自由記述を記載していた団体の選定に活用した。
- **調査項目：**
活用に向けた課題感の深掘りや、活用事例内容についての深掘りのためのヒアリング項目作成に活用した。

導入課題

- 生成AI導入時の課題としては、「**生成AIの活用方法が分からない**」が最多。
- 導入後の課題としては、「**精度の低さ**」が最多。

- 生成AI導入時の課題としては、「**生成AIの活用方法が分からない**」が最多。
- 導入後の課題としては、「**権利侵害の懸念**」が最多で、生成AIを活用している子ども子育て関連施設においては**内部規定・ルールが整っていない団体や私物端末を使って生成AIを利用している団体が多い**。

団体特性

- **都道府県の方が市区町村に比べて生成AIに対してニーズが高く、人口規模の少ない団体ほど生成AIの活用が進んでいない**。

- 公立私立ともに日常的に活用・実証実験を経験している割合は低く、**活用できると見込んでいる団体の割合も地方公共団体に比べて少ない**。

3. 調査事業のご報告

3.5. ヒアリング調査の実施概要

- ヒアリング調査では、①ニーズ調査ヒアリングと②動向調査ヒアリングにて現場の課題とその解決方法・意見等を広く収集し、専門家を対象とする③有識者ヒアリングにて、現場の実態等を踏まえてガイドラインへの反映方法についてご意見をいただきました。

①ニーズ調査ヒアリング

②動向調査ヒアリング

③有識者ヒアリング

調査方針

アンケート回答を踏まえて、**生成AIの利活用がうまくいっていない団体**における課題をヒアリングにより詳細化する。

生成AIの利活用やルール作りが進んでいる団体が、利活用に至るまでの課題をどのように解決したか、効果的な事例について深掘りを行い、成功要因や課題（ボトルネック）の解決方法について深掘りする。

有識者へのヒアリングを通して、①ニーズ調査ヒアリングや②動向調査ヒアリングを踏まえてガイドラインに反映する内容を取りまとめたものの妥当性を確認する。

ヒアリング対象

生成AIの活用に意欲があるが、日常業務に活用できていない団体が対象
●**保育園、幼稚園、こども園、地方公共団体**
利活用における課題の詳細についてヒアリング

好事例を有している団体が対象

●好事例団体

アンケートにて見つかった好事例団体や、委員会参加者の所属する団体の中から、幅広く事例を持っている団体を中心にヒアリング
※こども子育て関連施設1件、地方公共団体2件

専門知識（法律、技術）を持った有識者が対象

●法の観点：弁護士

法的な観点で問題の有無または懸念点等についてヒアリング（リスク回避、低減等）

●技術の観点：大学教授

技術的な実現性等の観点でヒアリング

実施期間

2024年10月28日～11月26日

2024年12月2日～12月13日

実施方法

Web会議

成果物

ヒアリング調査結果一覧（ヒアリング調査票に各回答のガイドラインへの反映方針を記載したもの）

3. 調査事業のご報告

3.6. ヒアリング調査の結果概要 (1/2)

- ヒアリング対象先の生成AIの導入・運用における課題や実際に導入した上での知見、有識者の方からの専門知識を踏まえたご意見を取りまとめて、ガイドライン基礎編や、実践編に反映しました。

地方公共団体 ヒアリング回答概要

- 費用対効果やメリット・デメリットなどの情報・知識を有していないことから予算確保など関係者との調整が難しいと感じている旨の回答
- セキュリティポリシー等の規程・ルールや利用環境の対応、AIの利用経験者の人材不足などを支援する組織の必要性について回答
- 情報政策部門等にて運用ルールや教育体制を整えるのがよいのではないかという回答
- 生成AI利活用におけるリスクアセスメントチェックシートを作成することで導入の負担を軽減している旨の回答
- 要配慮個人情報の生成AIでの取り扱い・ルールを作成している背景を回答
- ハルシネーションの懸念がない環境を整えることで、生成AIアウトプットの確認負担を軽減することが望ましい旨の回答

こども子育て関連施設 ヒアリング回答概要

- 生成AIの利活用に関する知識（注意点や活用事例等）が不足している状況について回答
- こどもの実体験を重視し、こどもに対して生成AIを使うことに懐疑的な回答
- 事務作業での業務負担軽減について期待を示す回答
- 業務プロセスの見直しによる段階的な導入の工夫、現場理解の促進に向けたリーダー層主導での取組を回答

ヒアリング結果の活用先

📄 ガイドライン基礎編

反映箇所 (例)	反映内容 (例)
3.1.(4) 生成AI利活用における 注意点	導入において、特に運用・管理部門が適切な知識をつける必要がある旨を反映
3.2.(1) 生成AI導入の流れ	<ul style="list-style-type: none">• 契約関連部署や、ICT関連部門等との協力が必要である旨を反映• 個人情報の取り扱いにおいて注意すべきポイントを反映

📖 ガイドライン実践編

- アペンディックスにて、先進的な取組を行っている団体の事例（ベテラン職員の知見を参照可能なツール）を反映

3. 調査事業のご報告

3.6. ヒアリング調査の結果概要 (2/2)

■ 前頁の続き

有識者ヒアリング回答概要

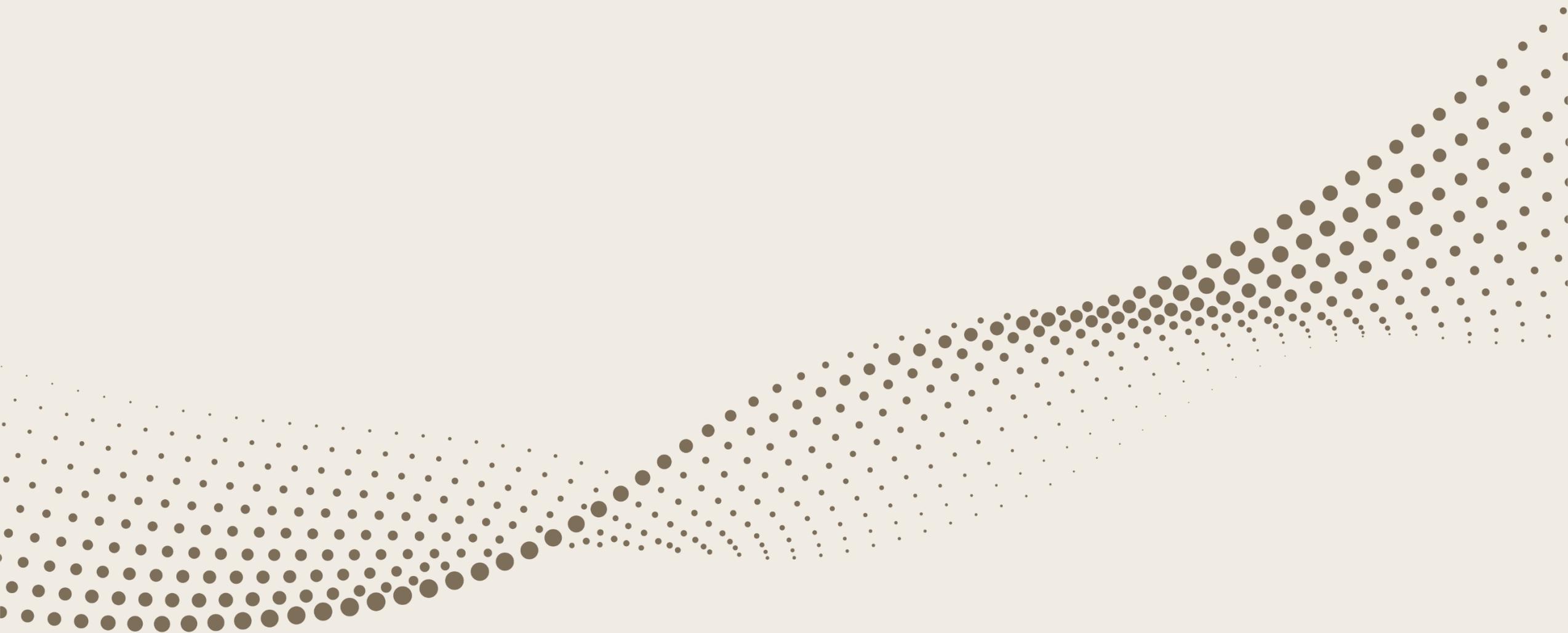
有識者

- キャラクター利用における著作権侵害の対策や個人情報保護の観点で、ガイドライン作成にあたって参考になる情報源（著作権法35条の運用指針など）の提示
- 利用規約や契約書の確認観点（生成AIが入力データを学習に利用しないかなど）についてのご意見
- 生成AI活用の透明性確保や適切な利用をサポートする体制整備の必要性など適切な利用のための指針についてのご意見

ヒアリング結果の活用先

📄 ガイドライン基礎編

反映箇所（例）	反映内容（例）
3.1.(3) 子ども・子育て分野での利活用可能性	チャットボット事例を取り上げる際に、利用者に生成AIを利用する旨を反映
3.1.(4) 生成AI利活用における注意点	生成AI利活用に関する問い合わせ先を設置することが望ましい旨を反映
3.2.(1) 生成AI導入の流れ	事業者への依頼事項や役割分担を詳細に定め、実装時の責任範囲を明確にする必要がある旨を反映



アビーム、ABeam及びそのロゴは、アビームコンサルティング株式会社の日本その他の国における登録商標です。
本文に記載されている会社名及び製品名は各社の商号、商標又は登録商標です。©2025 ABeam Consulting Ltd.



Build Beyond As One.